ひなどり

園だより　１０月号
令和５年１０月４日
新潟市立新津第三幼稚園

「支援のタイミング」

園長　　川合　千尋

様々な行事などで子どもたちと活動する際，子どもたちに支援が必要な場面があります。例えば，アイスアリーナに行ったときには，ヘルメットや膝のプロテクターの装着，スケート靴のひもを結んであげるなど，あるいは，グレープガーデンに行った時には，採取するくだものの押さえ方や，もぎとり方などどれも，ふだん子どもたちと一緒に活動をしていない私などは，ついついこちらの方でやり過ぎて手助けしてしまうか，ぼーっと見ているだけになってしまいます。

そんな時に，職員の様子を見てみると，子どもたちが自分でできそうなところは言葉を掛けるだけにとどめ，どうしても一人では難しい，うまくできそうにないというタイミングで支援をしています。なるほどなあといつも感心してしまいます。ふだんの子どもたちの様子をよく見て実態をよく理解しているからこその絶妙なタイミングでの支援をすることができるのだと感じています。

子どもの発達についての研究によると，人が発達する上で最も効果的なのは，その人ができそうでできない部分に教育的な働きかけをすることであるそうです。当たり前のような文言ですが，これがなかなか難しいことでもあります。その子ができそうでできないことを見極めるには，その子のことを毎日よく見てよく理解しておく必要があるからです。それと実は，そのちょうどよい働きかけに一番適しているのは，少し上の子どもたちなんだそうです。異年齢交流の効果はそんなところにもあります。

第三幼稚園では，いつも子どもたちの様子を見ている職員や保護者の皆様のおかげで，適切な支援のタイミングで教育的な働きかけが行われており，子どもたちも確実に成長をしています。（もしかしたら，その成長により気付きやすいのは，時より教育活動に参加する私のような者かもしれません。）これからも子どもたちの成長がとても楽しみです。